ひみつのおてがみ

小学１年　宇佐美　咲樂

　人は、亡くなると、生きていたときのおしごとはできなくなりますが、亡くなってから、はじまるおしごとがあります。それは、世界中の人たちを、見まもることです。

　私は、さちこおばあさんと、ひみつのおてがみのだしあいこをしています。おばあさんは、しょどうの先生でした。今は、ときどき、私のへやのまどに、すずめになってやってきてくれます。また、私が小学校からかえってきたとき、まどやつくえに、おてがみがはられています。そこにかかれてある、おばあさんの字は、私のお母さんの字に、よくにています。お母さんも、しょどうの先生なので、私は、おしえてもらったり、かいている字を見て、心の中で、字をなぞったりしています。字は、まるで、かいだんのように、おばあさん、お母さん、私、と、つながっています。これからも、ひみつのおてがみをかいて、おそらにあるつくえに、とどけたいと、おもっています。

　そして、私は、おぶつだんのよこのかべにある、たくさんのごせんぞさまに、はなしかけると、おちつきます。おばあさんたちの口が、やさしくうごくときがあります。おぶつだんのおかしを、私が、「いいですか？」と、きくと、「いいですよ」と、いうこえが、私にだけきこえるので、とおくからおじいさんが「まだよ」と、いっていても、私は、おかしをいただけます。

　私は、おぶつだんのある、この家が大すきです。今日も、みほとけさまと、たくさんのごせんぞさまたちは、世界中の人たちが、いっしょに生きていけるように、見まもることで、おおいそがしです。